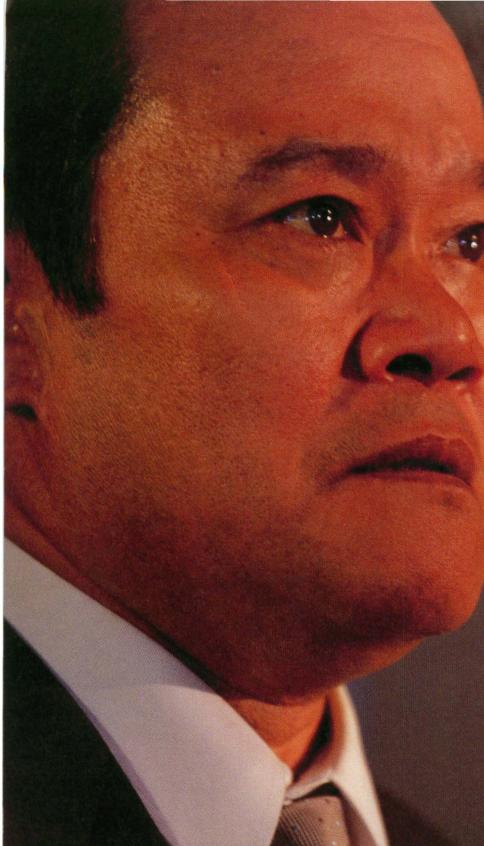


会社の危機を救つたのは、
会社が見放した男たちだつた。

『陽はまた昇る』

日本初の《世界統一規格》VHS誕生に隠された奇跡の逆転劇。



仲代達矢

井川比佐志
夏八木 熟

中村育二
田山涼成
蟹江一平
樹 音

江守徹
倍賞美津子

國村隼

石橋蓮司
津嘉山正種

緒形直人
真野響子
篠原涼子

渡辺謙

西田敏行

監督／佐々部 清

製作／高岩 淳 企画／坂上 隆 西村元男 プロデューサー／厨子稔雄 小松茂明 原作／佐藤正明

[脚本]

脚本／西岡輝也 佐々部 清 撮影／木村大作 音楽／大島ミチル

照明／猪野雅宏 美術／福澤勝広 新田隆之 葉飾／若松孝市 錄音／高野泰雄 助監督／瀧本智行

製作／「陽はまた昇る」製作委員会 東映 JVCビクターレコード 東映ビデオ シチク 加賀電子 日本出版販売 配給／東映

DOOLY

INTERVIEW



感動と元気をありがとう
私達はこの映画を応援しています

伊藤忠商事 キリンビール コスモ石油 トヨタ自動車
日経BP社 日本ビクター 日立製作所 ファミリーマート
松下電器 三菱電機 リンナイ

(五十音順)

今を懸命に生きる すべての人々に贈る感動の物語

1970年代前半の日本。右肩上がりを続けていた経済が戦後初めてのマイナス成長に陥った。体力を失った企業は大幅なりストラ、コスト削減に走る、現代の日本に似た時代——。カラーテレビを普及させた家電メーカーの次なる目標は家庭用VTRの開発だと思われていた。その新商品開発に最も力を注いでいたのが家電メーカーの雄・ソニーである。一方業界8位の日本ビクターのVTR事業は赤字続きで、会社はこの部門の縮小・合理化を決定。事業部長の加賀谷には大幅な人員整理を断行せよという厳命が下った。「部下を守り抜くには新型家庭用VTRを開発するしかない」加賀谷は本社に極秘でリストラ寸前の部下達と共に自らの存亡を賭けた開発プロジェクトチームを結成する——。

世紀の逆転劇に秘められた 名もなき男たちの闘い

NHKの高視聴率番組「プロジェクトX」でも取り上げられた、ソニー・ベータの圧倒的有利の下馬評を覆し、遂には日本初の世界統一規格に登りつめたVHS誕生秘話——。家庭用ビデオの規格競争の実話に基づき「夢に向かいがむしゃらに闘う男たち」として「男たちを陰で支え続けた人々」の姿を描いた今作品には、実際に開発・販売競争を繰り広げた企業が実名で登場する。男たちがこの闘いの中で何を見、何を感じたのか、彼らの目から見える光景は、成し遂げた偉業からは想像できないほど汗臭く、泥臭い。それでも前に進む彼らのうしろ姿に涙が止らない。

『鉄道員』『ホタル』を経て、 結実する夢

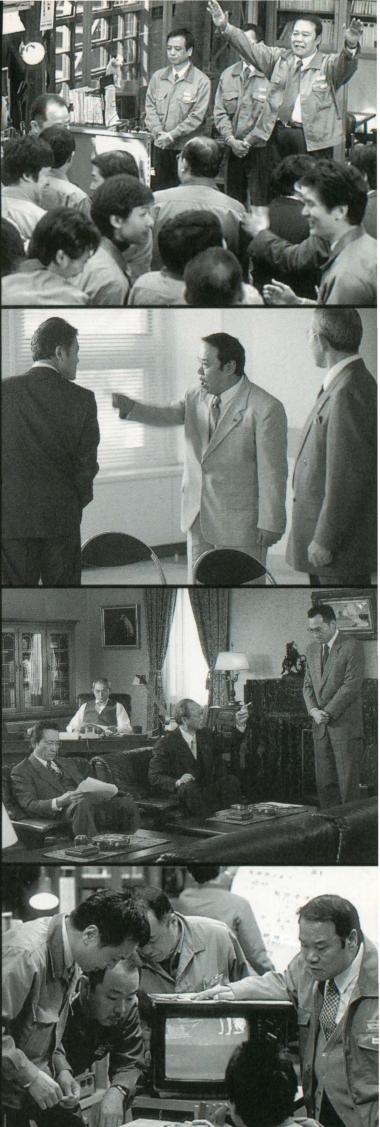
主人公の日本ビクター横浜工場ビデオ事業部長・加賀谷静男役には西田敏行。加賀谷の右腕となるビデオ事業部次長・大久保修役に渡辺謙、そして日本家電業界の父・松下幸之助役に仲代達矢と、実力派俳優が一堂に会し、ドラマティックなストーリー展開に緊迫感と重厚感を加える。『鉄道員』『ホタル』とチーフ助監督を務めた佐々木清が今回初監督。撮影の木村大作をはじめ今まで共に映画作りをしてきた両作の製作スタッフが集結した。

夢中にさせてくれて、ありがとう。

大久保「僕はサラリーマンになって踏み留まることばかり考えていました。会社には山なんていなかったんだ。でも、今なら僕も聞えるんじゃないかな?…」

加賀谷「この山も最後まで登ってみよう。何も見えないかもしれない。でも、登ることが大切なんだ…そしたら、ひょっとして何か見えるかもしれない」

陽はまた昇る



6月15日(土)よりロードショー

東西線木場駅・イトーヨーカドー3F・駐車場完備
109シネマズ木場
定員入替制 03(5683)0109